

## 説教要旨 「主の愛に留まる」

ヨハネによる福音書14章1～7節

「心を騒がせるな。神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。」(14:1)

これはイエス様がエルサレムで、逮捕される直前、いわゆる最後の晩餐の席で弟子たちに向けて語られた言葉です。直前の箇所、13章38節では、ペトロに「はっきり言うておく。鶏が鳴くまでに、あなたは三度わたしのことを知らないと言うだろう。」とその離反を予告しています。

この時、イエス様の命をつけ狙う人々がすぐそこまで迫っています。弟子たちにとって、自分たちが師と仰ぐイエス様がいなくなってしまうことは、自分自身の今まで歩んできたことが無駄になることですし、自らがこの先、どのように歩めば良いのかわからなくなってしまうような事態です。更には、自分の命もどうなるか分からないと言う漠然とした死に対する恐れも生じていたことでしょう。

イエス様からの離別の予告を受け、不安を感じているそんな弟子たちに、イエス様は「心を騒がせるな」と言われたのです。「大丈夫だから心配するな」と。その『大丈夫』の根拠として挙げているのが「神を信じなさい。そして、わたしをも信じなさい。」ということです。これは別に神さまがいるかないかの話ではありません。神さまがおられるというのは大前提の上で、「神さまの愛を信じなさい」と語りかけておられるのです。「神さまはあなたを愛しておられるのだから大丈夫だ。そしてわたしもあなたを愛している、見捨てたりしないから心配するな」と。

本日は永眠者記念の礼拝を守っています。私たちを愛するために、この地上でただ独り苦しみ抜かれ十字架にかかれた主イエス・キリストが「あなたがたをわたしのもとに迎える。」と約束されています。私たちが愛してやまない兄弟姉妹は、イエス様に迎え入れられて、神様と一緒にいて、喜びに満たされているのです。そして、この方たちは、自分が神様のもとにいて至福の時を過ごしながらも、この地上に残された私たちのことを放っておかないのです。私たちをその場所へと迎え入れる。そのために今、この場で共に礼拝を守っているのです。

(2018・11・4 説教者：稲垣真実)